



地域学校協働活動 & CS通信

〈第55号〉令和7年12月15日発行



て と て



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町1丁目3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

〈令和7年も残りわずかとなりました〉

コミュニティ・スクール(CS)の実施校が16中学校区(51小・中学校)となった令和7年も、残りわずかとなりました。新しく加わった4中学校区では、それぞれ特長のある活動が見られ、1年目とは思えないすばらしい活動ぶりでした。今後も教育委員会では、惜しみなく全中学校区への支援・協力をして参りますので、よろしくお願ひいたします。

【学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座】事例発表会 (11/12)

～「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて～

志々田氏講演



講演《学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進》

文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官の志々田まなみ氏をお迎えして、ご講演をいただきました。

そもそも地域学校協働活動とは? から始まり、役割や立場が違う学校と地域が、目的を一にして協働する意義やその在り方、さらに学校運営協議会を通じて、学校だけではできない教育活動や課題の解決を、地域の方と長期的・継続的に協議・共有する一体的推進が望ましいことをお話しされました。子どもたちに、人と人のつながり・信頼という「見えない資源」を伝えていくことが、学校教育活動の充実、地域活動や家庭教育の充実につながるという部分が印象的でした。

事例発表①:油川中学校区(発表概要)

幼保・小・中・高の連携ができている本地区では、学校運営協議会が熟議を通して、学校ができることと地域ができるることを明確にして協議し、子どもたちも主体的に関わられる地域づくりの実践に努めました。その一例として、一度終了が決まった「かかしロード280」を学校が主体となり、学校運営協議会が支援をし、「かかしフェスタ de Aburakawa」として復活させた事例があります。子どもたちのかかし作りを絶やさたくないという思いが、学校をそして地域を動かし取組の継続となりました。



事例発表②:古川中学校区(発表概要)

今年度立ち上げたばかりの学校運営協議会ですが、設立にあたり地域と学校がWin-Winの関係になるように、委員の人選に配慮し、果たす役割について共通理解し、各委員の本地域についての思いや願いを学校経営の方針に生かすよう努めました。また、「地域ねぶた」運行や「避難所運営訓練」実施にあたって熟議を繰り返し、委員の意見や思いを共有し同じ方向に向かって進むよう努めました。



ミニシンポジウム

事例発表者と2名の油川中生徒、志々田まなみ氏を加えてミニシンポジウムを行いました。油川中地区での取組では、子どもの思いを受け止め、学校の登場するタイミングのよさ、そして古川中地区での取組では、子どもが地域から褒められることの教育効果の高さ等が話題になりました。また、生徒たちの発言から、地域学校協働活動や学校運営協議会にも、児童生徒目線の参画も必要だという思いが深りました。



★令和7年度の学校訪問を終えて〈中学校編〉

※小学校編は次号です

今年度の学校訪問が11月で全て終了しました。各校校長・教頭先生、推進員、CSディレクターの皆様、ご協力ありがとうございました。今回は学校訪問時にお尋ねしている、地域学校協働活動あるいはCSにおいて、実際にできるかできないかは別として、こんな活動が実現できたらとか、こんなことがあればいいのにとか、皆さんに温めている「夢」のようなものを、数の多い事柄ごとにまとめてみました。

◎ 中学校 校長

- 1 子どもの見守りや支援に地域の力を(特別支援学級、教育支援センター、放課後学習室等の運営支援等)
- 2 学校と地域で行事・イベントの共同開催(演奏会、○○フェス、かかし作りなど多くの経験を)
- 3 学校運営協議会の充実とそれを活用した幼保・小・中・高の連携した取組

その他: 学校行事での来校者増、ボランティア活動の充実と自主的活動、防災活動、部活動の地域展開、地域の核となる中学生の育成

◎ 中学校 教頭

- 1 子どもの見守りや支援に地域の力を(教育支援センター、放課後学習、特別支援学級等の見守り等)
 - 2 地域の課題解決に中学生のボランティアを(困り事解決、地域貢献、地域行事参加等)
 - 3 伝統文化の継承を中学生の手で(地域のお祭り、伝統芸能、ねぶた等の参加や継承等)
- その他: 学校行事での来校者増、学校内に地域の方の居場所作り、CSで企画した主体的ボランティアの参加、図書室整備、人材バンク作り

◎ CS ディレクター

- 1 学校と地域で行事・イベントの共同開催(合同運動会・文化祭、学習会、防災体験・避難所設営訓練等)
 - 2 中・高校生のボランティアの参加拡大(国スポ等への参加、地域行事参加、人材育成等)
- その他: 地域の課題解決に中学生のボランティアを、不登校気味の子の居場所作り

◎ 中学校 推進員

- 1 中学生のボランティアの参加拡大(除雪ボランティア、地域花壇の世話、小・中学校がコラボしたボランティア、外(地域)へ向けたボランティア、地域ねぶたの参加、地域懇談会への中学生の参加等)
 - 2 地域を巻きこんだボランティアの展開(学校と地域の距離をもっと近づける、若い世代の親の取り込み、子どものいない30~40代の方の取り込み等)
- その他: 高齢者から知識・行事・ネットワーク等の引き継ぎ、近隣大学の留学生との交流

全体として、子どもの見守りや支援、地域と学校がコラボしてイベントの開催、中学生のボランティア参加拡大などの夢が多くありました。少しずつでも現実となっていくよう共に頑張っていきましょう!

【コラム】ハンドシェイク

推進員対象の「第3回推進員Café@青森市」が11月1日(土)東部市民センターにて開催されました。図書ボランティアの活躍・部活動の動向・キャリア教育の取組・PTAやCSの話題など、ざっくばらんに多方面の情報交換ができました。和やかな雰囲気の中、とても有意義な時間を過ごしました。来年度も開催の予定ですので皆さんもぜひご参加ください。



【編集後記】平成20年に始まった学校支援地域本部事業から、地域学校協働活動、コミュニティ・スクールと17年かけて、現在の体制が出来上りました。取組・研修が充実し、地域と学校は着実に距離が縮まり、よきパートナーとして子どもたちの育成に奮闘しています。これからも進化し続けていくことを信じています。